



特集 その後どのように暮らしていますか？

走って、跳んで、登っちゃおう！  
「五感を使って楽しく学べる家」



特集  
その後のように暮らしていますか？

# 走って、跳んで、登っちゃおう！ 「五感を使って楽しく学べる家」

東京都日野市 | 新築一戸建て(建築家と建てる家) | S邸(ご夫婦+息子さん)



## 1 ストーリー

今回ご紹介するのは、家を建替えてから1年が経った3人家族のS様の暮らし。この日はS様の親戚の子どもたちも遊びに来ていました。

「暖かい家にしたい」というお母様の希望と、「せつかくなら子どもたちの学びの場にもしたい」という、家庭教師をしている息子さんの想いが合わさってはじまった家づくり。様々な情報を集める中でたどり着いたのが「<sup>※</sup>OMソーラーのある住まい」だったといいます。「屋根に降り注ぐ太陽の熱を最大限に活かす仕組みに惚れました!実際に肌で感じる事ができる暖かさや『その熱はどこからきているの?』という興味。自然素材の空間で体を動かしながら、学校の勉強では学べないようなことを子どもたちに体感してもらいたいと思いました」と、ワクワクするような笑顔でお話くださった息子さん。その希望を叶えるべく、こちらの家の設計を担当したのが、建築家の徳田英和さん(徳田英和設計事務所)でした。

※OMソーラー:太陽熱を屋根で集めて利用する「空気集熱式ソーラーシステム」

ainoha 2018\*may-03

## 2

### 動きが生まれる空間



庭にはポンプ式の  
雨水タンク♪

▲元々よく屋上にのぼったり、ときには静かに座って過ごしたり。その時の気分によって色々な居場所のある住まい。



上下左右、色々な場所へ自由に行き来できる2階リビング

▲フランスのメーカーに特注したネット

回遊性のある間取り、登れる収納箱、壁一面の黒板に天井まで続くボルダリング、そしてその先には大きなネットを張ったアスレチックのような空間。部屋全体が動きを生む仕掛けで満ちている2階スペース。「体を動かせる、楽しくなる、段差がある……など、僕たち

の抽象的な家づくりのイメージを見事に徳田さんがまとめてくれました。きちんとしたプロの設計だからこそ、来てくれる人にも自信をもってこの家の良さを伝えられます」。学生時代から家庭教師を続けてきたという息子さん。その中で障害があったり不登校だっ

たり、様々な問題を抱えた子どもたちをたくさん見てきたといいます。「問題を抱えた子どもでも、ここに来ると自然と表情がほぐれていきます。登ったり跳ねたりゆらゆらしたりしてこの家を探検しているうちに心も体もほぐれ、勉強にも集中しやすくなるようです」。

### 3 住まいのみどころ



▲ 5月は風車から鯉のぼりに



▲ 貸し出しカードもある図書スペース

#### 体感しながら学べる家

S様の家の中には学べる体感ポイントがたくさんあります。普段は和紙などで覆ってしまうOMソーラーのダクトに透明の扉をつけ、暖かさや空気の流れを直に感じられる工夫や、階段には小さな図書スペースが設けられていました。また、2階リビングからは庭木にやってくる野鳥や窓辺に置いた花に集まる昆虫の観察ができます。「虫が苦手な子でも窓の外なら平気なことが多く、じっくり観察できます」と息子さん。



#### アイデアあふれる 暮らしの工夫

家づくりで余った端材を使って自身でDIYした椅子や、OMソーラーの熱を利用して発酵させたお手製のヨーグルトなど、家をフルに活用しながら色々な暮らしの工夫をされていました。まるで理科の実験をしているような、そんな楽しさのある住まい。

1…端材を使用したS様お手製ドリンクバー（断熱仕様）。2…キッチン常備の味噌やヨーグルトは自家製。3…端材でDIYした椅子（デザイン：石巻工房）。

1	3
2	



#### 取材後記

きちんとした「住まい」としての性能と、実際に体感しながら学べる「学校」のような機能と両方あるS様の家。家の中をぐるっと案内して頂くだけでも、登ったり下ったり面白い工夫があったりと、なんだか探検しているようでとてもワクワクしました！家の中でできることや学べること、新しい発見がまだまだたくさんあるんだなぁと改めて感じた一日でした。今後のS様の暮らしづくりも楽しみです！（記：広報 吉川）



設計：徳田 英和（徳田英和設計事務所）／施工：相羽建設  
撮影取材・編集：伊藤・吉川 ainohaバックナンバー <http://aibaeco.co.jp/100story/life/>



個別見学や授業相談のお問合せも随時受付中

お問合せ先  
[mail@aibaeco.co.jp](mailto:mail@aibaeco.co.jp)

特集 その後どのように暮らしていますか？

## 陶芸工房のある住まい



特集 その後どのように暮らしていますか？

# 陶芸工房のある住まい

東京都 | 木造一戸建て(+工房) | A邸(ご夫婦)



## 1

### ストーリー

今回ご紹介するのは二人暮らしのA様ご夫婦の住まい。陶芸作家のお二人は、以前は一つの家からそれぞれ別の工房へ通っていたそうです。「家と工房を行き来する手間や、作業量が増えて工房が手狭になってきたこともあって、「住まい」と「仕事場」が一緒になった家がほしいと思うようになったんです」とご主人。そこで、今まで住んでいた愛知県を離れ、ご主人のご両親の住む東京で土地を購入されました。設計を担当したのは、<sup>※</sup>OZONEでの紹介から出会ったオノ・デザイン建築設計事務所の小野喜規さん。念願の住居兼工房の家づくりがはじまりました。



## 2

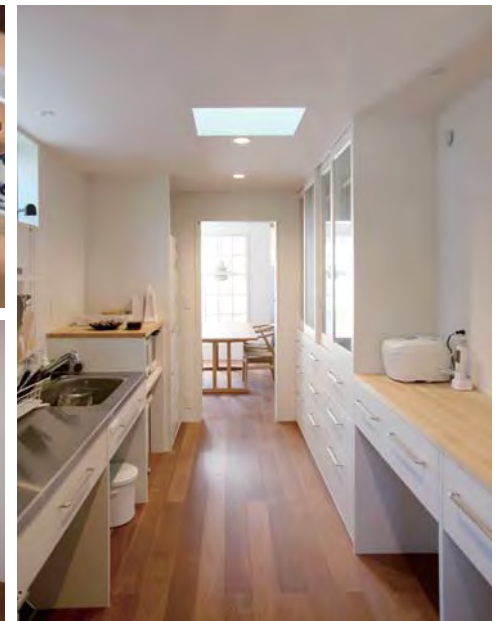
### ギャラリーのような空間

1階が工房、2階が住居となっているA様の住まい。玄関からリビングまで、家全体がまるでギャラリーのような素敵な雰囲気です。私たちが普段つくっている作品や新居に飾りたいと思っていた彫刻から、小野さんが住まいのイメージを膨らませて下さったんです」と奥様。奇抜な感じだけではなく、なんとなく愛着のわくシンプルな住まいのかたち。キッチンには大工さんと建具屋さんお手製のガラス戸の大きな食器棚あり、こちらはお二人の作品やお気に入りのうつわを収納しつつ眺められるようにとつくられたもの。天窓からさしこむ光がやさしく空間を照らしていました。

「2階はリビング・書斎・ダイニングが完全に仕切られていないこともあって、ちょうどこの3ヶ所がゆるくつながっている感じがすごく居心地がいいんですよ」。そう言ってにっこりと微笑むA様ご夫婦。穏やかな空気感のなか、思わず時間が経つのを忘れてしまいそうになります。



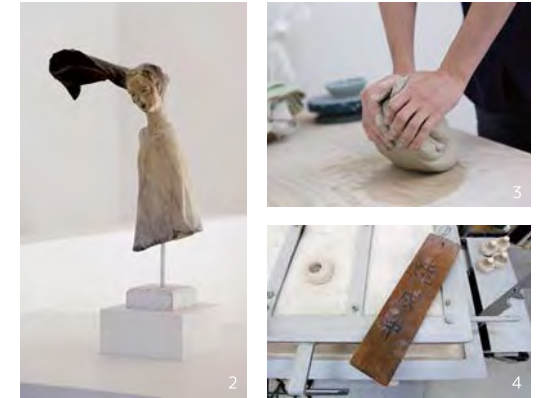
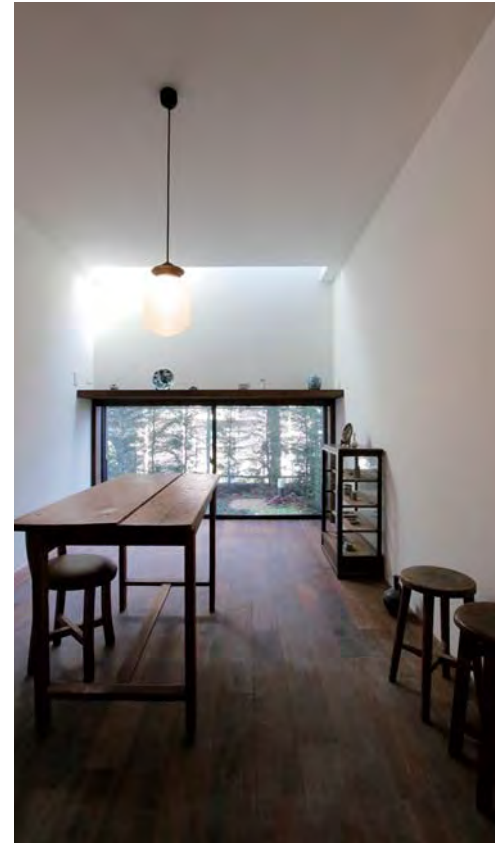
▲ ダイニング・書斎・リビングがゆるやかにつながる2階スペース





## ▼ デザインと実用性

荷物や材料の運搬が多いため、玄関付近は幅を持たせ、入り口から奥までを土間スペースに。その横にある応接間では、お二人の作品やアンティークショップで集めたというご主人お気に入りの古い家具が並びます。実用的だけれど、洗練された空間。



1…応接間。2…前川秀樹さんの流木を使った彫刻作品。3…仕事風景。4…ご夫婦共有の陶芸窯。5…豆砂利で洗い出した土間のある玄関。

## 3 自宅兼工房



◀ 生き物から風景まで様々な表情の奥様の絵付け用のラフスケッチ



## ▲ それぞれの工房

ご夫婦それぞれのスペースが確保された1階の工房。作品を乾燥させる棚があるのはもちろん、保管場所の確保に悩みがちな大量の材料も、大工さんが作った丈夫な棚にすっぽりと納まっています。家にいながら作品の乾燥具合などをすぐ確認しに行けるので、以前と比べて効率よく作業できるようになったそうです。



## 取材後記

ため息が出るほど美しい!シンプルで洗練されたお住まい。仕事場を家の中にとりこみつつも、しっかりと二人分の作業部屋と収納スペースが確保されていて、とても使い勝手がよさそうでした。ずっと続いていく生活の中の一部として、住むことと働くことが身近にある暮らし方って素敵だなあと、A様ご夫婦の暮らしぶりを見ていて感じたのでした。(記:広報 吉川)



設計:オノ・デザイン建築設計事務所/施工:相羽建設  
撮影取材:伊藤・吉川 ainoha/バックナンバーはこちら→<http://aibaeco.co.jp/photo/ainoha/ainohabackno/>





特集 その後どのように暮らしていますか？

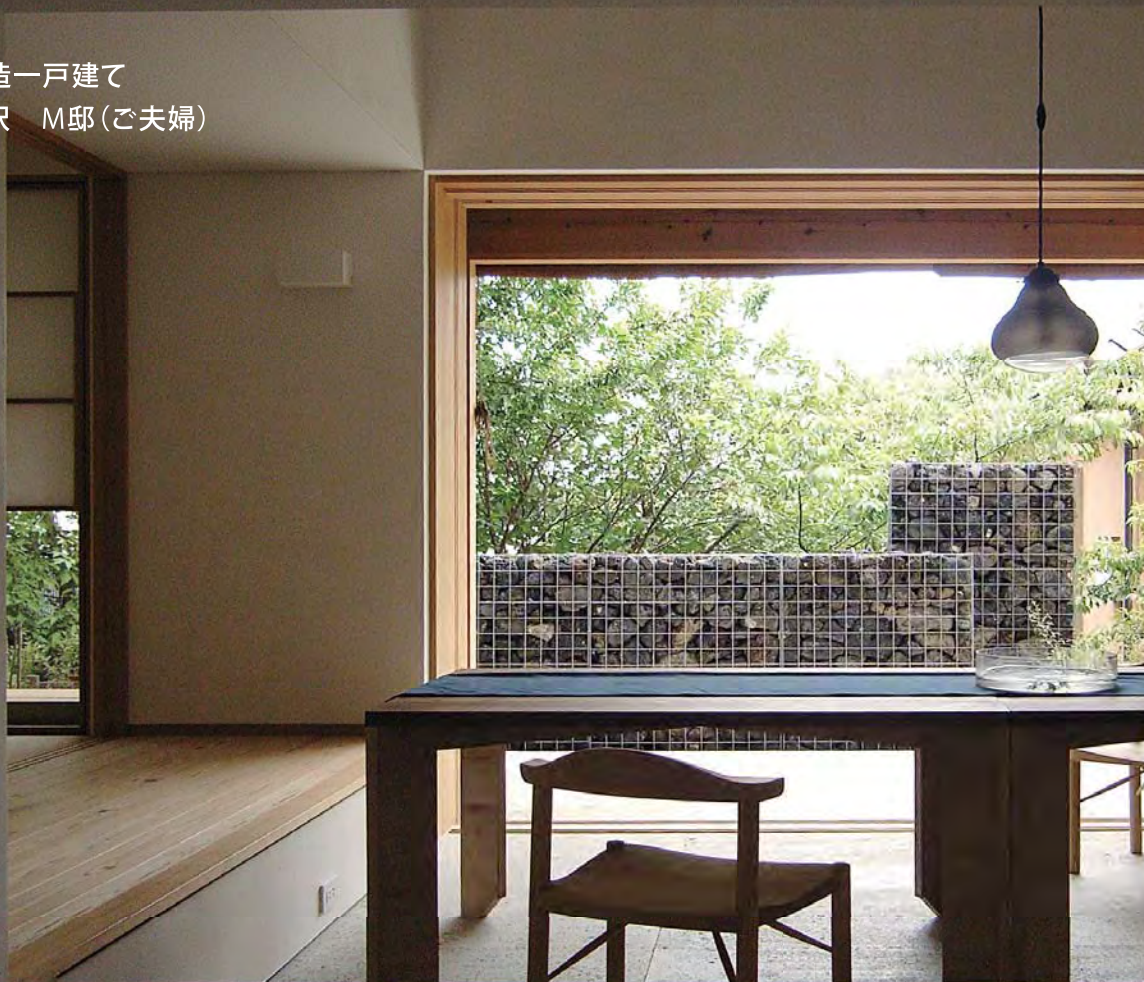
## おしどり夫婦の家づくり



特集 その後どのように暮らしていますか？

# おしどり夫婦の家づくり

埼玉県所沢市 | 木造一戸建て  
ソーラータウン西所沢 M邸(ご夫婦)



## 1 ストーリー

ソーラータウン西所沢のまちに暮らすM様の家を訪ねました。住みはじめてから2年が経ち、ご近所さんとの交流を楽しみながら、日々を過ごされているM様ご夫婦。ここに住むことを決めたキッカケの一つが土地の魅力だったといいます。

「土地探しでは100ヶ所くらい見てまわりましたよ。その中で夫婦ともに良い!と思った場所が、このソーラータウン西所沢だったんです」。周りに自然が適度にあって、敷地の中にも緑が多い家がいっぱいある。ゆるやかな傾斜から眺める周りの家の様子もとても綺麗で、そんなまち全体のバランスがとても良かったと語るM様。「まだ土地購入が決まる前に、ソーラータウン西所沢のイベント『にじとこ祭』に参加したことがあったんですよ。気づけば半日もタウンの方とお酒を酌み交わっていて、最後はタウンの方が、私たちが当時住んでいた自宅まで送って下さったこともありました。そんな住人のみなさんのおおらかな感じや、人柄の良さにもホっとしたのを憶えています」。

## 2

### ご近所さんと自然との暮らし

「このまちに暮らしはじめてから圧倒的に変わったのは、週末の時間がとても豊かになったことです。これまで都会で暮らしていましたが、騒がしくてプライバシーもなく、心も体も休まらず、週末は昼近くまで寝ていました。今では7時頃には起きて、散歩して、近所のコーヒー屋さんで夫婦二人でモーニングに行くのも楽しみになってます」。朝は鳥の鳴き声で目が覚め、昼間は近所の子もたちが楽しそうに遊ぶ声に元気をもらい、夏の夜は鈴虫の声を聞きながら眠る……そんな素敵な日々を送っているというM様。普段の何気ない生活の中に小さな幸せを感じます。

また、家を建てる前からイベントなどでよく顔を合わせていたというソーラータウンの住人の方たちとは、住んでから、より一層関係が活発になったそうです。「最初にご近所付合いの経験がなかったので戸惑いもあったけれど、BBQやマラソン大会に誘ってもらって、みんなで一緒に何かをする面白さを久しぶりに思い出して、すごく楽しいです。あとは、AIBAスタッフの新さんも同じまちに住んでいるので、もし何かあってもすぐに相談できるのも安心なんですよ」。

住む家の性能はもちろん、家のまわりの自然環境やあたたかいご近所さんたちとのつながりがあることで、毎日の暮らしが有難いものへと変わっていきます。

タウンの方が集った冬のイベント  
「薪カキ会」▶





特集 その後どのように暮らしていますか？

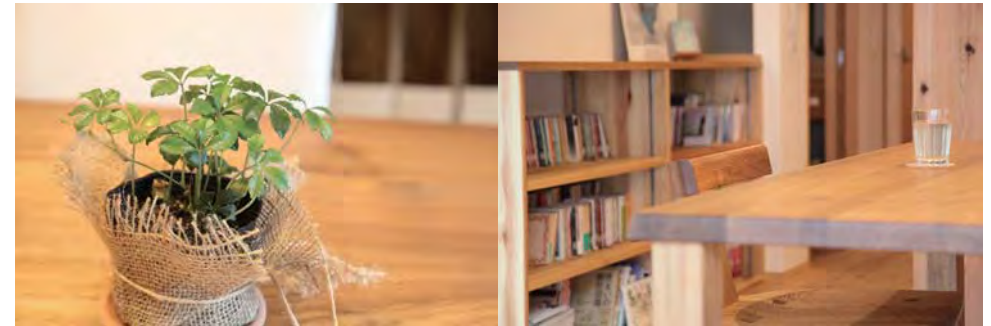
自分に合わせて暮らしをつくる



特集 その後どのように暮らしていますか？

# 自分に合わせて暮らしをつくる

杉並区 | T 邸 マンションリノベーション



## 1

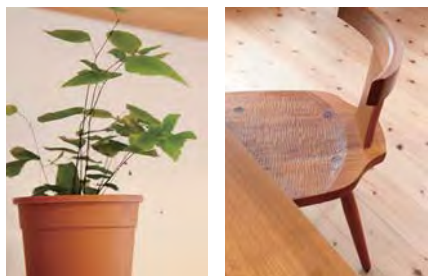
### 家づくりストーリー

今回ご紹介させていただくのは、マンションをリノベーションしたお住まい。家のそばには川が流れ、川沿いの道をずっと歩いて行くと公園や緑地にもつながる、自然を身近に感じられる場所です。こちらに住みはじめてから半年ほど経つT様に暮らしぶりを伺いました。

以前は、転勤のため職場の近くで暮らしていたというT様。しかしなかなか街に馴染めず、思い切って杉並区に引っ越してみたところ、環境の良さに心を動かされたそうです。「この街ですと暮らしていきたい……」そう思い、周辺の物件を探している中で出会ったのがこのマンションでした。「モノや家を持ちたいという気持ちはもともと強い方ではなかったんです。でも、あと何十年と住み続けることを考えたら、賃貸ではない居心地の良い家で暮らしたいと思いました」。それから、T様の暮らしに合わせたマンションリノベーション計画がスタートしました。

## 2

### 自分に合わせた家づくり



無垢の床に気持ちよさそうに寝ころぶ猫のシマちゃん



ダイニングテーブルとイスは埼玉県の家具作家さんがオニグルミの材を用いてつくったもの

T様がマンションの設計をしてくれる建築家さんを探していた時に会ったのが"いろは設計室"の橋垣さんでした。自然素材や、国産材にこだわった住まいにしたかったというT様は、橋垣さんの人柄や今まで手がけてきた無垢の家づくりを見て「良いな」と感じ、プランをお願いすることに。お話

をお聞きする中でT様が以前賃貸に住んでいた際、素材や間取り・水回りなどともとある家に自分を合わせることを少し不便に感じることもあったそうです。「リノベーションすることで自分に合わせられる家になりたい」そんなT様の希望を取り入れ、既存マンションの一室がより暮らしやすい

部屋へと生まれ変わりました。「無垢の床になって部屋も明るくなりましたし、気持ち良くてついゴロンとしちゃいます。広がったキッチンのありがたさも感じます」とT様。取材中もお手製シロップジュースを頂き、まったり。今の暮らしをじっくりと楽しんでいる様子が伝わってきました。

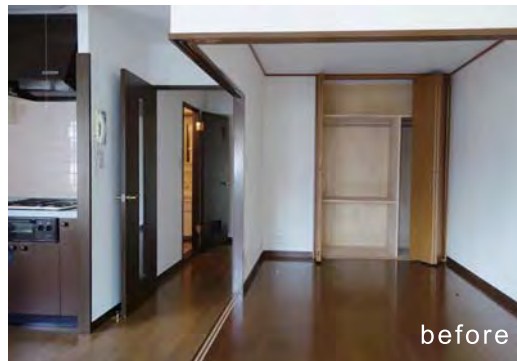
### 3 Before & After



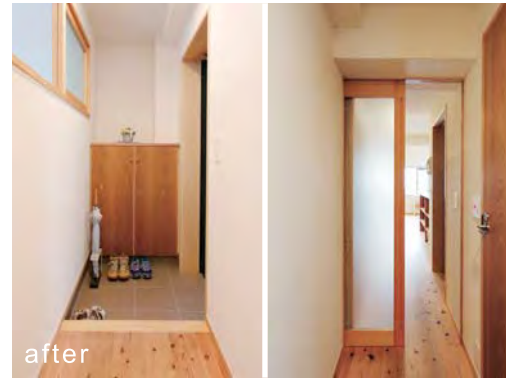
キッチンともつながるリビング・ダイニング

#### ▲ リビング・ダイニング

以前の室内は茶色のフローリングとビニールクロスの壁でした。それを漆喰や無垢の杉材に替えることで、部屋全体が明るくあたたかい雰囲気になりました。T様がたくさん持っていた本は、大工さんがつくった大きな本棚に収めました。また、既存の窓にもう一枚窓を重ねることで断熱や防音効果を高めた部屋となっています。



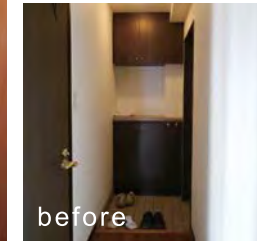
before



after

#### ◀ 玄関

周りに窓が無く、暗くなってしまいがちな廊下は壁に小窓を取り付けることによって隣の部屋からの



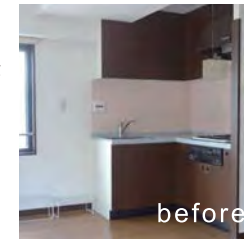
before

光が届き、明るくなりました。さらにリビングへ続く扉も半透明にすることでやわらかい光が玄関までひろがります。

#### キッチン ▶

壁向きに設置されていたキッチンは対面式のものに替え、窓の景色が見える場所に移動しました。

「広めのキッチンになって、品数の多い料理も作りやすくなりましたよ!」とお料理好きのT様も満足されていました。



before



after

#### 暮らしてみても…

ハイキングやジョギングなど体を動かすことが大好きなT様。「ここに住むことを決めてから、新しいことをはじめようという気持ちになりました。さっそく近所にあるホットヨガに通ってみたり、サーフィンをはじめたり」と、嬉しそうに話してくださいました。住みはじめてまだ数か月……これからさらに暮らしの楽しみがひろがっていきそうです。

#### 取材後記

お仕事の関係で、なかなか職人さんのいる時間に現場に行けなかったというT様。そのためいつも「監督さんや職人さんへ」と、メッセージ付きの差し入れを置いてくださっていたそうです。心のもったやりとりで心があたたかくなりました。家をつくる方も住む方も気持ち良いとても素敵な家づくりだったんだなあと感じました。(文:広報 吉川)



「楽しい貴重なお時間をありがとうございました!」

いろは設計室 → <http://iroha-design.com/>

取材:伊藤・吉川 取材後記はコチラ → <http://ameblo.jp/ainohablog/>

### 3

## 暮らしを設計する



### 人が集まる通庭

ご夫婦で建築のお仕事をされているM様。実はこの家もご自身で設計されたお住まいです。玄関からダイニング、そして庭まで続く大谷石の土間は「通庭」と名づけられ、「タウンの方がふらっと立ち寄って一緒に食事をつくったり食べたりできる場にしたい」——そんなM様の想いからつくられました。タウンの人がたまたま集ったのがきっかけで、薪ストーブを楽しみながら牡蠣を食べる「薪カキ会」が冬の恒例イベントになりつつあるそうです。「いずれは、タウンの全世帯の方がいらっしやると嬉しいです」とM様。



### 季節ごとの暮らし方を楽しむ

薪ストーブとソファのある小さな土間や、花火の見えるインナーバルコニーなど、M様の家には心地よく過ごせる居場所がたくさんあります。「季節や天気によってくつろいだり、寝る場所を自由にかえたりしています。その時々によって居心地の良い場所を探す猫のように(笑)過ごしています」とM様。その言葉の通り、夏は風通しの良いインナーバルコニーやテラスがあったり、冬の寒い日には、あたたかい陽の光の中で日向ぼっこできる縁側があったり……。季節ごとの部屋の特徴を楽しみながら暮らせる魅力的なお住まいです。



左上：薪ストーブのある小さな土間。右上：溶岩を積んだ「打水堀」。石の間から水が流れ出ます。左下：書齋とつながる書庫。右下：インナーバルコニーでくつろぐ奥様。夏は花火を見ながらビールを飲んでいます。



### 取材後記

定期点検の日に、M邸で「薪カキ会」に参加させていただきました。家の建築に関わったAIBAスタッフや大工さんたちも集まり、素敵な家で奥様の美味しい手料理をいただき……と、なんとも楽しく貴重な時間を過ごさせていただきました。その席でM様は「ゆくゆくは、書齋で夫婦の設計事務所をオープンしたい」とのこと。楽しみです！（記：広報 吉川）



設計：M様 / 監修：田中敏博建築設計事務所 / 撮影：寺島由里佳 / 取材：伊藤・吉川  
「ソーラータウン西所沢」の暮らしにご興味がある方は「あいほの不動産」をご覧ください→ <http://aiba-fudousan.jp/>